

ゆりりんだより



社会福祉法人中央有鄰学院で一ヶ月の
時が流れました。元気に飛び回っている
子供たちの姿を見てみると、昔のことを
思い出します。

気ままな生活に終止符を打ち、社会人
としての第一歩は学童保育でした。「指
導員殺すのに刃物はいらぬ、雨の三日
も降ればよい」との言葉どおり、梅雨時
には大勢の悪戯鬼の下敷にされており、
体力勝負の日々をおくっております。
しかし、30歳を過ぎ、体力の限界を理由
に学童保育を辞したあとは、障害者施
設、高齢社会の波に乗り遅れまいと、在
宅支援センター（現包括支援セン
ター）、高齢者施設を渡り歩き、今、此
処で子どもたちの歓声の中にいます。

振り返れば、いつも人との出逢い、ふ
れあい、そして別れの場面に身をおいて
きたようで、私自身が、人と人との繋が
りを欲していたのだと感じています。

「人はね、ひとりでは生きていけないの
よ」と、近隣の人々に支えられながら、
ひとり暮らしを楽しんでいる（本人の
弁）ヨワイ90の母の言葉が妙に腑に落ち
る此の頃です。



常務理事
児玉 克己



ちびっこまつり 2014



やりたいことみつかった？

少し肌寒い中行われたちびっこまつりでしたが、親子連れを中心に沢山の方に、ご来場いただきました。
大迫力の吹奏楽に、色鮮やかなパルーンアート、歌に踊りに盛り上がったステージ等、様々な催しが行われました。
お店屋さんごっこコーナーは、お金を持って買い物をしたり、欲しいものを選んだりと、ちびっこたちにも買い物疑似体験してもらいました。



ほだか

歩いて行けるところに、こんな素敵な場所があるなんて知らなかったなあ...



うめちゃんが読んでくれる絵本はいつもたのしみ！

ほだかのみんなでイチゴ狩りに行きました。たくさんのイチゴに子どもも大人も大はしゃぎ！服や手が真っ赤になるほど、みんなたくさん食べました。



ゆりりん



社会人として自立する日を迎え、みんなで記念写真を撮りました。



春は別れの季節でもあるけれど
新しい出会いと、これからの暮らしに希望を持ちたい

故郷宮古島を訪ねて...



施設からの自立を前に、幼少期を過ごした宮古島を訪ねました。思い出の地を訪ね、幼い頃の自分を知っている人に出会うことができました。

まだ思い残したことはあるけれど、大切にされていたことを実感することができた旅でもありました。生い立ちの整理もできたと、これでまた、少し前に進めるかな。

きた旅でもありました。生い立ちの整理もできたと、これでまた、少し前に進めるかな。



ふれあいセンターおおだかの玄関前のプランターには、春の花が満開。冬に子どもたちと植えたチューリップも、黄、赤の可愛い顔をのぞかせました。待ちに待っていた子どもたちは、「かわいい!」「きれいね。」と感動したり、「さいたいさい」とチューリップの歌を口ずさんだりしています。

お部屋の中は、子どもたちが十分身体を動かすことのできる運動遊具も設置しました。

『ははの箱基金』や『赤い羽根の共同募金』よりいただいた助成金により、子どもたちが遊ぶ良い環境づくりができています。



ふれあいセンターおおだか ちびっこのつどい

どんなおもちゃよりも、ママとのふれあい遊びがいちばんです。



きょうわ

共に寄り添い、共に育つ

『自立援助ホーム きょうわ』が開所して、1年半が過ぎようとしています。この間、6名の子どもたちがここを巣立っていきました。しかし、中卒であったり、家族の援助が期待できない中で社会へ出て、予想以上に厳しい現実が待っています。

職場の人間関係に苦しんだり、体調を崩したりして、仕事を続けることが難しく、退所時には充分あった貯金もすぐに使い果たし、新たな仕事を探さなければならぬ子もいます。

そんな先輩たちの奮闘する姿を見聞きし、厳しい現実を身にしみて感じながら現在も6名の子どもたちが『きょうわ』で自立を目指して生活しています。

きょうわの職員は、不安や孤独感を受け止め、共に悩み、時には人生の先輩として助言をし、子どもたちの未来を支えていこうと日々奮闘しています。



就任のご挨拶

ほだか施設長 梅村 麻美子

早いもので中央有隣学院にきて1年が経ち、再び中庭の花みずぎが美しい季節となりました。

この度、副施設長としての1年間の見習い期間を無事に終え、4月から施設長に就任して働いています。

乳児院は昔と違い、今は親御さんのいる子どもがほとんどです。約半数の子どもが最終的に親元に帰ります。外出することを「ママ行く」と言う男の子がいました。同じユニツトの子どもが、母親が面会に来て外出する時、「ママ、ママ」と喜んで部屋を出る姿を見て、面会のない彼は「ママ」は外出することだと思っているのです。

この1年間最もとまどったことは「仕事で子育てをする」とはどういうことなのかということでした。母親は365日24時間母親です。そして死ぬまで母親であり続けます。その母親の役割をどこまで「仕事」として担うことができるのか、代替できるのか。今も答えは出ていません。ただ、母親ではないけれど、精一杯子どもたちを愛してあげて欲しいと職員には話しています。

ほだかの子ども達が人間への基本的な信頼を培うことが出来ますよう、職員ともども努力してまいりますと思えます。

皆様の暖かいご支援ご指導、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成26年1月1日から平成26年3月31日までに、寄贈・招待・ボランティア活動にご協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。(順不同、敬称略)記載されていない方がございましたらお許しください。

【個人】

- 石井祐治 石塚博幸 上田美由紀
- 内海香奈子 江川美江 永井修
- 金田和久 鈴木勝 前田剛
- 高嶺 明美 豊田美幹 矢守信昭
- 吉長敦子 牧真吉 丹下由子 松山信
- 高阪正春 山口ミツノ 浜島四郎
- 児島徳和 西川慶子 山口保
- スズキマサヒロ 中京大遊びグループ
- りんの会 笠寺おもちや病院 華調風月
- おやじの会

【団体】

- 社会福祉法人愛知県共同募金会
- (株) I T O 泉万醸造(株) (株)カーブス
- 木村スポーツ KEIZ大高店 (株)カーブス
- キリンビバレッジ(株)中部地区本部
- 近清商店(株) ジエイ・エス・ブイ
- セカンドハーベスト(株) タキヒョー(株)
- 地域計画建築研究所 中部善意銀行
- 中部楽器技術専門学校 名古屋観光ホテル
- (株)名古屋食糧 東昌寺 (有)尾州商会
- 名古屋民間児童入所施設連絡協議会
- 名古屋東山ロータリークラブ
- フアームハラダ (株)フリーダム
- ヒルズウオーク徳重ガーデンズ 連合愛知
- トヨタ自動車(株) 三菱商事(株)
- (株)ジェイストーム 愛知県助産師会
- 名古屋名南ロータリークラブ 山田鶏卵

COLUMN

明日ママがいない(日テレ系)。

様々な議論をよんだドラマでした。過去には、「タイガーマスク」現象、そして今回の「明日ママがいない」。施設を利用しなければならぬ子どもたちのことを知ってもらえる機会と肯定的にとらえることもできます。でも、結果的にブームでした。

今、どこのメディアが、「明日、ママがいない」のあと、施設の子どもたちを語っているでしょうか。この子たちは、ブームの中で翻弄されるべきではないと思います。

心あるメディア関係の方に伝えたい。

きっかけは、ブームでもいいです。でも施設で暮らさなければならぬ子どもたちがいること。それは、子どもたち自身に問題があるのではなく、社会であり、私たちを含めた大人たちに要因があるのです。

現在の子どもたちの置かれている状況を、そのまま伝えてほしいと思います。必要以上の感動や衝撃映像ではなく、ありのままを伝えて下さい。子どもたちの将来のためにその力を貸してください。

〈事務局通信〉

ヘルパーステーションゆうりん開設

平成26年4月、社会福祉法人中央有隣学院は、名古屋市昭和区にヘルパーステーションゆうりんを開設いたしました。